

# 東山の森だより

【第21号】

発行：なごや東山の  
森づくりの会  
発行者：滝川正子  
編集：広報班  
発行月：2014年9月  
(年2回発行)

## 目次

・森づくり11年と平和公園自然観察会33年	滝川正子	1
・定例森づくり活動へのお誘い	小笠原芳夫	2
・班活動紹介	今尾由美子	2
田んぼ班	寺村義明	2
畑班	松田幸久	3
炭焼班		3
その他の班		3
・森で子どもを育む	平田泉	3
東山の森で子どもを育む	藤岡嶺子	4
子ども東山の森づくり隊		4
子どもたちの声		4
・森の生き物	小笠原こずえ	4
植物「里山が美しい」	長坂淳子	5
動物「青い宝石」	山下紀雄	5
・森のトピックス	山下紀雄	5
笹ゆりの里を夢見て	杉本由紀雄	6
・森の表情		6
「感じるのは人」		6
・森づくりを生かした支援・交流		6
・なごや東山の森づくり憲章		6

## ★森づくり11年と平和公園自然観察会33年★

滝川正子

宇宙に浮かぶ地球には、約46億年の歴史を経てさまざまな環境に適応し進化してきた生き物が暮らしています。その生き物と環境が織りなすネットワークは長い年月をかけて現在に至っています。東山の森の自然も人も自然の一員であることを胸に刻み、共生する社会を願う観察会は続いています。

▼さて、平和公園自然観察会は、1977年8月、県、市がオリンピック誘致を決め、平和公園南部地区58畝が候補地となり、オリンピック反対運動の中で誕生しました。反対運動が功を奏したとはいいませんが1981年9月のIOC総会で、52対27でソウル開催が決定し、平和公園の自然が残りました。この平和公園の自然を伝えるため1981年春から、日本野鳥の会のKさんと始めました。また、全国でも自然観察会が珍しかった時代でした。また、当時の私の勤務校の生物部は活発で彼らの活動は



感動の連続でした。ミツバチのFさんもそのひとりでした。もう、手遅れかも知れないが、鳥が棲み、ドングリが実る雑木林を街に残したい。忘れてしまった風景へ連れ戻してくれ、四季折々の光、影、風であふれ、やすらぎに満ちた雑木林、そして、子どもたちにも伝えたい。これが自然観察会の原点となりました。

▼その後、1999年3月に平和公園自然観察会から名古屋新世紀計画2010へ市民と行政の協働による森づくりを提案しました。その年に、名古屋市によって東山の森づくりに関する研究活動会や協議会が開催され、2003年5月に「なごや東山の森づくり基本構想」が策定、さらに、2005年には東山動植物園再生プランも策定され、2008年から里山の整備が着手され、奥池近くに井戸が掘られ水が汲み上がり、水路から水田を潤し、再生。大坂池に入りました。また、新たに段々畑、炭窯も



造成されました。一方、同時に芝生広場の元クレー射撃場からの鉛汚染土壌の除去・覆土、さらに立ち入り禁止区域が設定され、そして、往年の耕作地はなくなり、平和公園南部は大きく変貌して、くらしの森となりました。▼最後に、愛知県にも名古屋市にも自然史博物館はありません。その愛知県・名古屋市の生物多様性条約COP10が2010年10月に開催されました。そして、市は「生物多様性2050なごや戦略」を策定し、その後、2011年9月に「なごや生物多様性センター」を設立されました。森づくりと自然観察会は流れの中で、その一翼を担ったと自ら評価しております。▼雨にも風にも負けず観察会は休むことなく続けています。なごやにも語り継ぐ自然があります。33年間とは、思えば遠くに来たものだ、この先、みんなを乗せて東山の森はどこへ行くのやら。



## 定例森づくり活動へのお誘い

小笠原芳夫

活動日：毎月第一日曜日 9時15分～15時（7月～9月は10時～12時）

活動場所：奇数月＝ふれあいの森・いのちの森・うるおいの森  
偶数月＝くらしの森

上半期の参加者数：154名（内こども9名）

東山の森全体を活動対象とする定例活動は、活動内容も多岐にわたり、雑木林の伐採整理・竹林整備・草原の草刈りから湿地の葦の刈り取り整備まで、月によりさまざまです。

上半期には、1・3月にうるおいの森にある天白溪の湿地及び周辺整備により春にはツツジ3種類の花やニワトコの花もきれいに咲きました。

また、くらしの森では大坂池南の斜面でクズ・笹の根を除去して地域性苗木の植樹と整備がはじまりました。まだまだやりたいところ、やりたい作業がたくさんあります。

より良い東山の森を未来に渡せるように、少しの時間でも、ひとりで多く参加していただけるよう待っています。



南畑予定地クズ刈り



竹皆伐区域の竹の子除去

## ★班活動紹介★★★★★

**田んぼ班**（活動：毎月第2日曜日）

今尾由美子

最近亡くなった父に、子どものころあま市にある在所の田んぼに連れていってもらっていたことがきっかけで、田んぼ班に入った米作りの経験のない班長です。それでも4年目に入り、少しずつ要領がわかってきたところです。

田んぼ班は市民の親子25組が参加する里山体験講座を開いているので、お天気がよい、講座のあるときは、113名の参加という時があります。

しかし、森づくりの会員だけが参加する活動では、5名から多くて20名ぐらいです。

子どもに米作りを体験させたいという熱心な仕事をもつおかあさんたちが会員に見えます。自分の経験から、子どもたちの小さいときの経験は大事なことと思ひ受け入れています。スタッフの仕事を皆さんで支えていただくよう、今年からは、ホームページの記事は、会員さんが順番に書いています。

また昨年からは第2日曜日の定例活動日も決まり、仕事のある人も参加していただきやすくなりました。イネに寄り添いながらの作業なので、臨時活動も出てきますが、育てる喜びを感じながら、田んぼの生き物の生命力の応援をうけ元気に活動しています。



なつかしい田んぼの風景

**畑班**（活動：毎月第2・4日曜日）

寺村 義明

夏野菜に挑戦

班員の皆さんから特に夏野菜を栽培したいとの希望があり、まず最初に無農薬と有機肥料での栽培の難しさ、特に水やり、草取り及び害虫駆除の徹底を図る事の大切さを認識して頂いた上でナス、キュウリ、トマト、トウモロコシなどを栽培する事にしました。

今年は、夏野菜の苗を植えた頃に例年になくイモムシ類の発生が多く見られ毎日害虫退治に追われましたが、何とか乗り切る事が出来ました。水やりと除草作業も班員の皆が自主的に行って頂いたおかげで、定例作業時には、それなりの成果があり収穫の喜びを多少なりとも感じて頂いた事と思います。



ところで皆さんはスーパーで見かける“ズッキーニ”が育っている様子を見た事がありますか？畑班で活動している皆さんも殆ど見た事がないとのことなので、是非知って頂きたくてこの畑で育ててみました。班の皆さんにも、そして散策の途中の市民の皆さんにも、ちょっと変わったズッキーニの生育過程見ていただき、新たな感激を味わった、と喜んでいただきました。では、ズッキーニは何の野菜の仲間でしょうか、一度調べてみてください。



そろそろ夏野菜も終わり、これからの畑作業は、秋冬野菜を育てる準備に入ります。里山を散策される皆さんに少しでも楽しんで頂ける畑作りを皆で行っております。

## 炭焼班 (活動:毎月第3土曜日)

松田 幸久

炭焼班の活動場所は、基本的には、くらしの森の炭焼き広場です。時に、炭材を求め、薪材を求め、森内の様々な場所に現れます。昨年までは、「減煙実験」の為の活動が、主になっていましたが、今年に入ってから、再び、「木炭作り」に移行しています。しかし、炎を扱う作業の為、夏場は休止中。



本来炭焼きは、いろんな知識・経験を駆使しながら、行っていきます。特に我々の炭焼きは市街地で行うがゆえに、従来のそれに比べ想定しない知識が必要となっています。

「煙突効果を利用しての煙の操作」「熱に耐えうる窯天井の材質選定」「効率が良い窯内の容量計算」「計器を使っての温度測定」「風向きを予想する天気図の見方」等、物理・化学・地学の知識を使い、云々・・・。

な～んて、大げさな言い方をしましたが、要は「都会の真ん中、東山の森で炭を焼く」を目指しています。皆さんの智恵をお貸しください～い。一緒に炭焼きしましょう！

## その他の班

平和公園里山班	活動:毎月第3日曜日	活動エリア:くらしの森
東山南部里山班	活動:毎月第4土曜日	活動エリア:いのちの森・うるおいの森
子ども東山の森づくり隊	活動:年3回	活動エリア:くらしの森・いのちの森・うるおいの森
竹くらぶ	活動:毎月第3、4木曜日	活動エリア:くらしの森
藤巻班	活動:毎月第2土曜日	活動エリア:いのちの森東部藤巻町地内
東山の森そばくらぶ	活動:毎月第1土曜日	活動エリア:くらしの森
調査活動班	活動:随時	活動エリア:東山の森全域

## 森で子どもを育む

### 東山の森で子どもを育む

平田 泉

里山に参加する前、たまに公園に行ったりするだけで自宅でのんびり過ごしていました。公園へ娘と一緒にいっても、娘は楽しんでいますが、私は何をやるわけでもなく、ただずっと見守っている日々でした。

このまま、貴重な幼少期を過ごさせていいのか？ そんなとき、ふとした縁で里山へ通い始めました。私はすぐになじんで楽しく参加できましたが、娘はそのころ6歳。自分から進んで里山へ行くことは残念ながらありませんでした。今でも無理やり里山へ連れ出すことはせず、本人の気分で里山に行くかどうか決めることにしています。

その娘も里山に来た当初は、田んぼやそばの活動など積極的に参加していませんでしたが、徐々に自然観察のようなことを自分なりにやっていることを話してくれ



見て！大きなカエル

るようになりました。どんな話かという、今日はアリの行列をずっとみていた！など。そのころ学校の国語の授業でアリの行列の話を勉強していたようです。アリの行列に石を置いたり、水を流したり、アリの行列がどうやったら乱れるのか？など。アリには迷惑な話ですが、これも一つの里山体験になるのでしょうか（笑）里山ではほとんど作業の手伝いをしないうせに、学校の先生からのコメントで「学校の花壇の雑草抜きなど自分から進んで頑張っていました。」とあり、少々驚いています。これは里山効果なんですか？里山に行くことによって知らず知らず色々なことを学んでいるのかもしれない。

## 子ども東山の森づくり隊

藤岡 嶺子

子ども隊員は今年度46人です。30人位を予定していましたが、里山の家に申し込みに来た人に「人数を超えたから」と断れなかったのです。第1回目は「うるおいの森」で5月17日冒険ハイキングを実施しました。参加者は子ども隊員37人、家族やスタッフを加えて90人でした。すばらしい五月晴れにめぐまれ、森は貸し切り状態、ハイキングと崖のぼりをたのしみました。



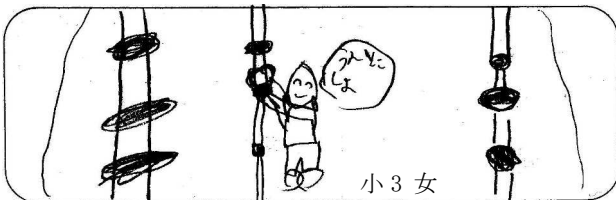
第2回目は9月27日ナイトハイクでした。参加者は隊員32人に家族・スタッフを加えて95人、里山の家は壁に机を寄せて床に座っても人でいっぱいになりました。土曜日の午後6時過ぎ、いつもは明るい部屋でTVを見ている子どもたちは、日が暮れた暗い森へ入るのが初めは心細くこわかったようです。虫の声に耳を傾けて姿が見えなくても生き物がたくさんいることを感じ、においやせせらぎの音を普段より敏感にとらえる体験をしました。奥池まで歩いて、真黒な高い木のシルエットに囲まれた草地に座って竹リーナの演奏を聴きました。里山の家に帰ってきて「コースをもっと長くしてほしい」と夜の森を歩くおもしろさに目覚めた感想を書いた子もありました。



## 子どもたちの声

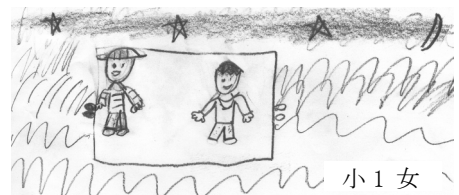
子ども東山の森づくり隊講座より

◇第一回講座「冒険ハイキング」平成26年5月17日



アンケート主な感想：崖でやり方を教えてもらいすごくわかりやすかった。  
いい天気でいろんなことがいっぱい出来てよかった。

◇第二回講座「暗がり体験」平成26年9月27日



アンケート主な感想：いろんな虫の声がきけてばんきょうになった。  
よるなのにちょっとあかるくてびっくり。

## 森の生き物 植物 「里山が美しい」

小笠原こずえ

山の森は今 濃い緑一色

段々畑の夏野菜の実りもひと段落、さつま芋のつるが伸びに伸び、田んぼに案山子が表れて、季節が少しづつ秋色に変わりつつあります。私は定例活動に参加しています。



季節によって活動場所が変わり、変化に富んだ東山の森を歩くたびに、ちょっと違った期待に気持ちがワクワクします。

4月のくらしの森では、アシやガマ刈りをしながら、目の前にツクシを見つけ、「今晚のおかず！」思わず、ツクシ採りに熱中していました。ツクシがこんなに身近にあることにビックリです。友達を誘ってのツクシ採りが、春の楽しみの一つになりました。

5月のふれあいの森での竹林の手入れ。育成区域外のタケノコを伐採除去し、処分するのを頂いて、「たけのご飯！」。竹林はきれいになり、一粒荘跡地が甦るといいな、と願っています。



9月は又ふれあいの森。雑草でおおい尽された散歩道などの雑草狩りです。葛を中心に、背丈まで伸び、絡まった草を引っ張ったら、とんでもなくでかい（下品ですね）むかごがびっしり、ごろごろ。大好物の「むかごご飯！」もう夢中でむかご採りです。むかご仲間が増えました。我が家のベランダのプランターにむかごの子どもたちがまるまると育っています。

里山には ツクシ、タケノコ、むかご、セリ、ノビル、ふきのとう、銀杏、ヤマモモ、桑の実……もう 美味しいものがいっぱい！活動のご褒美、とともに、自然の恵みに感謝です。

## 森の生き物 動物 「青い宝石」

長坂 淳子

小1の息子が夏休みの課題でカワセミのポスターを描いていました。カワセミといえば、山奥の清流に住んでいる珍しい鳥だと思っていたのに、意外！初めて見たのは東山の森でした。双眼鏡で見ても小さくしか見えないけれど、確かにキレイなブルーの鳥が見えました。

カワセミは「青い宝石」と言われる美しい鳥で、日本中の川や湖に住んでいるそうです。主に魚を食べているということで、水面下での写真を見ると体を細長くして魚めがけて矢のように飛び込み捕えています。ほっこり佇んでいる姿とは対照的でびっくりです。大坂池にダイブするカワセミの姿も是非見てみたいものです。

巢は水辺近くの土に、長いクチバシを使って1mもあるトンネルを掘って部屋を作るそうです。いつも歩いている東山の森にもそんな部屋があるのかと思うとワクワクしますね。カワセミをはじめ、サギやタカ等普段なかなか出会えない鳥と出会える環境が身近にあるということにあらためて感謝したいと思います。



## 森のトピックス 森のトピックス 森のトピックス 森のトピックス 森のトピックス

### 笹ゆりの里を夢見て



### 山下 紀雄



奈良の率川神社で、毎年6月17日に開催される三枝祭は別名笹ゆり祭と称され、私はここで初めて、笹ゆりの存在を知り、この花の可憐で繊細な美しさに魅かれ、以来この花の大ファンになりました。大阪から今の住まいに転居して暫くの間は、近くに笹ゆりを見る事なく、寂しく思っていたのですが、以外にもすぐ近くのくらしの森に自生していると聞き、それからはここで笹ゆりを楽しませてもらうようになりました。

当初くらしの森には沢山の笹ゆりが自生していましたが、保護活動がなされていない上に毎年盗掘に会い、近年では僅かにしか見れなくなった為、先行きを心配、独りでほそぼそと観察・保護活動を行って来ました。

斯かる中 平和公園里山班の皆さんが、活動の一環として、笹ゆり自生地の間伐・下草刈り・種まき等を積極的に手掛け、笹ゆり育成に力を入れてくださるようになりました。お陰様で今年は近年になく、沢山の笹ゆりが花を咲かせ、笹ゆりの子供達も元気に新芽を出してくれました。

これからも皆さんと共に、このくらしの森に、より一層素晴らしい笹ゆり群生地ができる事を夢見て、頑張りたいと思います。

私は、15年ほど前から時々、登山のトレーニングとして平和公園を歩くようになりました。自然を感じながら気分よく歩いていました。

しかし、今思えば昨年までは平和公園の自然について何も知らなかったように思います。そして、平和公園の自然は、昔からそこにあったはずですが、それに対する感じ方は、今と昔とは全く違います。

今は、身近な平和公園の自然をじっくり見ることで、気付かなかったいろいろな物が見えてきました。そして、発見の度に大きな喜びと感動を味わうことができます。また、名前もほとんど知りませんでした。今はかなり分かるようになり、より親しみを感じます。さらに、写真に撮って拡大して見たとき、植物や虫たちの形や模様の美しさ・不思議さには驚かされます。昔は、自然を遠くから見ていたのかも知れません。今は、自然に近づきその自然から幸せをいただいています。これからも、平和公園の自然を楽しみたいと思います。



マエアカスカシノメイガの『魅せられて』

### 森づくりを生かした支援・交流

- ・名古屋市職員研修「NPO派遣研修」研修生受入れ（名古屋市）・・・全6日
- ・26年度里山くらし体験「田んぼ講座」（名古屋市）・・・全6回
- ・26年度里山くらし体験「サツマイモ講座」（名古屋市）・・・全4回
- ・なごや生物多様性センターまつり「ダンゴムシレース」「切り紙細工」・・・5/10
- ・CSR支援＝畑西側雑木林手入れ（TG社）・・・5/18
- ・環境デーなごや2014 身近な自然体験会（名古屋市）・・・6/7
- ・CSR支援＝畑西側雑木林手入れ（HTS社）・・・6/15
- ・（独法）国際協力機構（JICA）視察案内・・・7/2
- ・CSR支援＝大坂池南植樹地草刈り（RDS社）・・・7/12
- ・CSR支援＝竹からお椀とお箸を作ります（蓮教寺どんぐりクラブ）・・・8/23

### なごや東山の森づくり憲章

私たち市民は、なごや東山の森づくりを通して共生型社会の実現をめざします。東山の森は、人々に潤いを与え、生き物たちに豊かな生育環境をもたらしています。東山の森は、人と自然の生命輝く森です。私たちは、協働して森を守り育て、森と関わり、森づくりを生かし、次世代に森の大切さと素晴らしさを伝えることを目的としてここに憲章を定めます。

- 一、私たちは、東山の森の豊かな自然とともにあることを大切にします。
- 一、私たちは、森づくりを通して生活の知恵や技術を生かし、伝えます。
- 一、私たちは、協働して豊かな森づくりを進めます。



### ★ホームページを見てください!!

⇒ 当会の活動を紹介するホームページです。

定例森づくり活動や班活動の様子、子ども森づくり隊の案内、各種イベントの紹介  
また、森の中で観察された生きもの紹介などなど内容豊富です。ぜひご覧ください。

なごや東山の森づくりの会

検索



《会員数：9月末日現在172名（個人169名 企業3社）》

### 《会員募集》人と自然のいのち輝く森 「東山の森づくり」に参加しませんか!!

年会費：（個人会員）2,000円  
（夫婦会員）3,000円  
（企業会員）10,000円/1口以上  
入会申込・問合せ：〔連絡幹事〕 鬼頭 保  
Tel/Fax: 052-751-9510  
e-mail: kito022445@mediacat.ne.jp

### 編集後記

投稿歓迎⇒ 水谷泰通 Tel:052-782-5036  
e-mail: y-mizutani@r7.dion.ne.jp  
レイアウト担当 2回目でしたが、本来 7.5 頁の原稿と写真を 6 頁に圧縮いたしました。文書のフォント、行間は極力圧縮せず、情報等は詰めました。本来大きくしたい写真も断腸の思いで止む無く縮小。カラーでお届けしますので、想像の翼を広げてご覧ください。Y 生